



2022年 11月 24日発行 会報第1124号

今週のプログラム

(2022年11月24日 第1124回例会)

卓話：よもやまのご報告(続編)

担当：藤田 芳浩会員

次週のプログラム

(2022年12月1日 第1125回例会)

卓話：プログラム委員の独り言

担当：松田 親男会員

第1123回例会 (2022年11月17日) の記録

「会長の時間」

山田 克子会長

山本先生ご無沙汰しております。

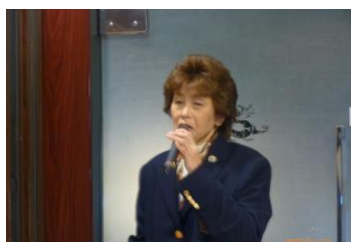
久しぶりにお目にかかれてとても嬉しいです。ご多忙の中お越し頂きありがとうございます。そして、関西大学留学生の皆さんようこそ。皆さんのスピーチを楽しみにしていました。後程よろしくお願います。当クラブの米山奨学生グエンさん、今日のスピーチを千里メイプルの皆さんも応援しています。今年度のロータリークラブのテーマは **Imagine** です。人と人が力を合わせ想像や夢を形に、そして行動し実現していきましょうと言う意味が含まれています。皆さんもきっと御自分の将来を想像することや夢を持って留学されていることと思います。それを叶える為に実現に向かって楽しく進んでほしいと願っています。しかし日本滞在が学業やビジネスとして割りきって過ごされるのではなく、どうか心癒される場所や素敵な人々と巡り会うことの素晴らしさも知ってほしいと思います。

私もアメリカインディアンの人々の伝統工芸品を輸入しているため、皆さんと同じように若い頃から異国の地アメリカへ行き来していました。ビジネスをリタイアした人々との交流もあります。

津波で被害を受けた東日本大震災の時、出張の度にアメリカで滞在している家庭のアメリカの人々から心配の電話がたくさんありました。そして「あなたに、日本に、何かあってもここにもうひとつあなたの家があることだけは覚えていてほしい、いつでも来てほしい」と言ってくれました。ビジネスとしてだけではない交流は私の大事な宝物になっています。

皆さんのこれからの人生には、喜びの他にも、くじけたり、挫折することがあるかもしれません。

そんなときに、皆さんにとって日本が、日本の友が、皆さんの心癒せるもうひとつの場所となってくださることを一番に願い、健康で元気に過ごしてくださることを祈っています。



<お客様> 関西大学 国際部教授 山本 英一様
関西大学留学生 王 雨浩さん 李 曉カンさん 馬 光恩さん
李 金奕さん 宋 シュセンさん
2022 学年度 米山奨学生 グエン キム フンさん

<出席報告> 高尾 修 SAA 補助
会員数 (内出席免除会員 1 名) 19 名
本日の会員数 10 名
(内出席免除会員 0 名)
(内名誉会員 0 名)
本日の出席率 55.56%

<本日のピアノ曲> 近藤 美里さん
1. 瞳を閉じて
2. Sing
3. You Raise Me Up



<幹事報告> 山本 友亮 幹事
1. ガバナーノミニー・デジグネート指名のご通知がありました。
2022 年 11 月 16 日に地区ガバナー指名委員会が開催され
2025~26 年度 第 2660 地区ガバナー候補者として
大阪北ロータリークラブ 吉川 健之 (よしかわ たけし) 会員が指名されました。

★山田会長より『ロータリーとポリオ学習会修了証』が米山奨学生グエンさんへ授与されました。

<SAA 報告>

※ロータリー財団

藤田会員 関西大学 山本英一様 お久しぶりです！！
水本会員 留学生の皆様 ようこそ！！楽しんで下さい。
黒川会員 留学生 ようこそ！！
高尾会員・山田会員・松田会員 コメントなし

※米山記念奨学会

木下会員 留学生の皆様 ようこそ！今日はよろしくお願ひ致します。
藤田会員 グエンさん 本日宜しく 楽しんで下さい。
高尾会員 留学生の皆様 よろしく！！
黒川会員 関大 いらっしゃい！！
山田会員・山本(雅)会員 コメントなし

※メイプル基金

藤田会員 関西大学留学生の皆様 本日、宜しくお願ひします。
山本(友)会員 留学生の皆様 ようこそ。

留学生によるスピーチ テーマ『コロナ禍で頑張った事』

宋 シュセン (中国) 関西大学 化学生命工学部・化学物質工学科 4年生

一人暮らしをしている私は、家に彩りを添えるために、時々花を買ってきて家の中の花瓶に挿していました。花には、見た人を元気にし、疲れて帰ってきた私を落ち着かせ、癒してくれる力があると感じました。しかし、花は買ってから2週間でしぼんでしまい、捨てなければならないことが多いです。コロナ禍となり、学校がオンライン授業になり、アルバイトもなくなりました。外出自粛の期間もあって、外にあまり出ないようになり、家にいる時間が長くなりました。家にいる間に、花がどんどんしぼんでいき、ついに捨てざるを得なくなった過程に気がつきました。健康や命を大切にしている今、命ある花を捨てなければならないのは本当に悲しいことだと感じました。

何か自分にできることはないかと考えるようになりました。ある日、偶然にドライフラワーの写真を見て、買って帰った花も自分でドライフラワーにできないかなと思うようになり、実際に試してみました。ドライフラワーを作り始めてから、花によって乾燥方法や時間が異なることがわかりました。家で暇な時間を使って違う花の乾燥方法や時間を調べたり、試したりして、ついに家にある花をドライフラワーにすることができました。このドライフラワーをずっと家に置き、私の家に彩りを添えてくれています。

新型コロナウイルスにより生活が変化し、色々制限されることもあり、大変な時期ではありますが、この時期だからこそ、忙しい日々気づかなかった家の片隅にあるものに気がつくことができ、今まで当たり前だと思っていた生活の中の小さなことを発見する機会になりました。ドライフラワーを作ることで、花を別の形で家に残すことができ、喜びを感じました。作る過程にも大きな満足感を得ることができ、命の尊さをより感じることができました。

コロナ禍という厳しい環境の中で、短期間で状況を変えることはできませんが、それに立ち向かう私たち自身の行動は、変える事ができます。日々を有意義に過ごし、困難な環境下でも、「今自分にできることは何か」を考え、行動する大切さを実感しました。

李 暁カン (中国) 関西大学 東アジア文化研究科 博士後期課程1回生

私にとって、「コロナ禍で頑張ったこと」は、たとえコロナ禍の最中にあっても、自分の夢を叶える為に、一心不乱にやりたいことをやり抜いたことです。私が日本でやりたいことは二つあります。まず一つは、日本で中国語を教えることです。もう一つは、日本語と中国語文法の対比研究です。

まず、中国語を教えることについて話したいと思います。私は2019年から、大阪の中国語学校で非常勤講師として働いています。コロナ禍が始まってから、オンライン授業が増えました。対面授業の時にも、マスクを着用することが義務になっています。しかしながら言語教育において、発音の練習が一番肝心で、マスクを着用した状態やオンライン授業では、授業中お互いに口の形をはっきり見ることができないので、学生が先生の発音を真似しにくかったり、先生も学生の発音が正確かどうか判断しにくかったりとたくさんの困難がありました。その中で私はコロナ禍での適切な言語の教え方はどういった形であるべきかについて深く考えました。例えば、どのように言葉で発音のコツを説明するか、オンライン授業においてどのように学習者たちの反応をみるか等、試行錯誤の連続でした。コロナ禍での生活も今となっては日常になりましたが、私は今でもレッスンをより面白くし、学習者たちが一日も早く中国語を話せるように取り組んでいます。

次は、学業についてです。私の研究は現代中国語文法を基礎とする研究ですから、中国本土から資料を入手したり海外の学会に参加したりすることはとても重要です。しかし新型コロナウイルスの影響でこれらもまた、難しくなりました。このような中でもコツコツと努力を積み重ね、最後無事に修士論文を完成させて修士号を取れたことは本当に大きな自信となりました。ただ、コロナ禍が始まって三年が経とうとする今も、依然として中国のコロナ対策は大変厳しいままで、ずっと実家に帰れないことが本当に寂しいです。

修士を卒業した時に、本当は一度家に帰って家族に会いたかったと思いましたが、飛行機が少なく、到着後の隔離などの様々な困難がある事から結局帰省を諦めざるを得ませんでした。こんな状況がいつまで続くのか分からないため、両親が私のことを心配して、博士後期の進学をどうかやめてほしいとまで言われたほどでした。しかし、私はそのまま自身の研究生生活を終わらせたくない、将来博士号を取って、大学の中国語教員になりたいという一心で、両親と話し合った結果、父も母も私を応援すると言ってくれました。このようにして、私は今年、志を新たに、博士後期課程へと入りました。日本で引き続き勉強する機会を与えて頂き大変嬉しい思いです。これからも一層努力していこうと思っています。

コロナ禍はまだ決して収束したとは言えません、しかし世界は段々と開放的になり、人々は正常な生活を取り戻しています。私が25歳から28歳になるまでの三年間、コロナ禍は確かに私の人生において大きな打撃となりました。しかし、そのような中、勉強に励み自分のやりたい事を成し遂げたことは私の大きな自信になりました。最後に、コロナ禍も早く収束し、私たちの生活が元通りになることを祈ってこのスピーチを締め括らせていただきます。

李 金奕 (中国) 関西大学 経済学研究科 修士1年生

コロナ禍で頑張ったことは二つあります。一つ目は、地元のPCR検査のボランティアに参加したことです。2020年から、世界は新型コロナウイルス感染の影響で、各国の飛行ルートは数本となりました。私は2020年2月1日の航空券を購入しましたが、キャンセルされ、3月1日にやっと母国に帰ることができました。しかし、午後4時の飛行機で青島空港に到着しましたが、いろいろな検査が必要だったため、夜12時にホテルに到着し、そのまま隔離となりました。その間、医療関係者は毎日定刻にPCR検査をしてくださいました。医師の温かさなどを感じ取ることができました。医療関係者はリスクを恐れず、日々新型コロナウイルスと戦い、社会に貢献してくれています。私には何が出来るだろうかと考え、結果PCR検査のボランティアに参加しました。このボランティア団体は、地元だけでなく、中国全般にも広がっております。このボランティアは主にQRコードをスキャンして統計し、現場対応をします。具体的に言えば、毎朝5時半にPCR検査拠点に行き、防護服を着て、住民のQRコードをスキャンしてPCR検査を始め、また、積極的に住民を安全な距離で並ばせ、「マスクを着用してください」と、呼びかけます。情緒不安定な住民がいれば、繰り返しコミュニケーションをとり、落ち着かせます。また、QRコードを検索または登録していなかった高齢者のお手伝いもしました。高齢者が不安にならないよう、優しく真心をもってお手伝いするよう心掛けました。住民が求める限り、「どんなにリスクがあっても、どんなに困難があっても、いかに大変でも、心をこめて解決しなければならない」と思いました。約3ヶ月のボランティアを通じて、地元の住民と医師のお手伝いをし、自分も成長したと感じています。自分が持っているすべての才能を輝かせ、ひとりひとりの人がこの世の中をしなやかに、そして笑顔で生き抜いてもらいたいと思っています。そして、1日も早く新型コロナウイルスが終息してほしいです。

二つ目は、大学院の進学です。私は大学を卒業後、就職するか進学するか迷っていました。11月に、大学院に進学することを決めました。そこで目標に向かって努力する力を身につけることができました。専門を変えたことを乗り越えた結果、大学院に合格することができました。将来も目標を定め、一つずつ達成して成長していきたいと考えています。ご清聴ありがとうございました。



宋 シュセンさん



李 暁カンさん



李 金奕さん

王 雨浩（中国） 関西大学 商学研究科 1年生

コロナ禍で最も頑張ったことは、北海道の大手スーパーマーケット企業との共同でビッグデータの技術を使って、新型コロナウイルスの影響を分析したことです。

みなさん、最近話題になっていますが、ビッグデータをご存知ですか。最新の技術を使って、大量のデータの中に埋もれている意味のある情報や価値のある知識を発見することができます。

私が取り扱ったのは、北海道にある100軒以上の店舗の実際の購買データです。

収集されたデータを分析することで、面白い情報が発見されました。たとえば、2020年のデータから見ると、緊急事態宣言が発表された後、保存食やインスタントフードの売上が急激に上昇しました。その他、ある一つの商品の売上が何倍も高くなりました。それはみなさん多分答えを聞いて「そうきたか」と思うはずです。それは、そう、お酒です。緊急事態宣言の発表により飲食店の酒類の提供禁止に伴い、宅飲みやオンライン飲み会が一時流行っていましたね。そんな特別な時期に、アルコール好きの人はスーパーやコンビニエンスストアで、自分でお酒を買うという選択肢しかないのです。また、北海道は土地が非常に広く、近くにコンビニエンスストアが無いため、車でスーパーに買い物に行くことが一般的です。

また、コロナ期間中、在宅勤務の会社もどんどん増えました。それに伴い、それまで少子高齢化で減少していたスーパーの売上に占める若者の利用率の割合が大幅に増加しました。

企業側が新型コロナウイルス流行の傾向を見ると、次の緊急事態になる前に、販売計画を予測して、在庫を確保することが可能になります。これによって、消費者側は緊急の時でも必需品などを手に入れることができ、企業もより多くの利益が得られます。

実際、企業側から送られてきた数億行のデータを初めて開いたとき、私は驚きました。埼玉県民である友人から聞いた「子供の頃初めて海を見た感動」をよく理解できました。分析作業は難しく、非常に手間が掛かりますが、データからこのような面白い情報が得られるたびに、時間をかけた価値があるといつも感じています。さらに、データを分析して作った提案書が実際に採用されたら、北海道の人々の生活に役立つことができると思います。それは私にとってとてもうれしいことです。

他の研究者はさまざまなデータを用いて分析を行い、新型コロナウイルスの影響をあらゆる側面から軽減していきます。このように社会の役に立てることが、私が研究を続ける最大の価値だと考えます。

馬 光恩（韓国） 関西大学 環境都市工学部 3回生

私は2020年3月に韓国の兵役義務のために軍隊に入りました。それは丁度新型コロナウイルスが蔓延し始めた時期でした。しかし軍隊は国を守る機関のため、訓練や任務に新型コロナウイルスの影響を受ける事はありませんでした。以前は月に1度の休暇が許可されていましたがコロナ禍では休暇も外出も許可されないまま、2年間訓練と任務を遂行しました。しかし、私は不満を持つのではなく、与えられた休み時間に健康な体を作るための運動と忙しくて読めなかった小説や自己啓発本などを読んで、もう一度自分を振り返る時間として活用しました。

入隊中、自分の将来について考え、悩んだ結果、日本で橋梁の構造設計士になって地域と地域を繋ぐ橋梁設計士になりたいという事に気付きました。軍隊で再び専攻学科の勉強を始め、夜間勤務前の睡眠を削り、専攻知識を積んでいきました。

入隊中に読んだ本の中で一番印象深い本はユヴァル・ノア・ハラリのサピエンスという本です。2、3回読むと人に対する私の考えが変わり、人間の進化と本性について理解を深めました。

また、コロナの時期に私は健康な体を作りました。軍隊の中で特急戦士という地位と分隊長の仕事もやり遂げました。リーダーをしながら、分隊員たちの悩みを聞き、相談に乗りました。それによって他人を配慮できる能力と他人との対話能力が高くなりました。私はこれからの世の中に立ち向かう為に、健康な体と知識と将来の目標の為の準備をしてきました。そして現在も引き続き邁進中です。



王 雨浩さん



馬 光恩さん



グエンキムフンさん

グエン キム フン (ベトナム) 大阪成蹊大学 経営学部 3 回生 米山奨学生

コロナの影響で、私の留学生活に多くの困難をもたらしました。2020年4月大学1年生になると感染状況が悪化し、入学式や部活などが中止されて、勉強も全部オンラインになりました。バイトも観光客が無いのでシフトがカットされ、給料が減り多くの支払いが溜って不機嫌になり、くたくたでした。その時、私の心に響いた名言があります。

“When life changes to be harder, change yourself to be stronger. What hurts you today, makes you stronger tomorrow.” —Edwin Mamerto

「人生がより困難に変化する時、より強くなるために自分自身を変えて下さい。

今日あなたを傷つけるものは、明日あなたを強くします。」—エドウィン・マメルト
自分のライフスタイルを作り直す決意しました。新しい趣味を試して、新しい食べ物の作り方や編み物を学んだり、木を育てたり、SNSの外国人日本語学習グループで楽しんだりしました。これはペースを落とし、より計画的目標を設定する唯一のチャンスかもしれないと考えました。日本には留学や体験のために来たので、留学費用に左右されずに充実した留学生活を送りたいと思い、民間の奨学金を目指し始めました。200%の力を尽くして年の3.5GPA取得を目指して努力して、2年生で奨学金獲得のために緻密に計画を立てて行動しました。そして千里メイプルRCにやっと奨学生として来ることができました。この半年間、人生で初めて多くのイベントや活動を経験できて、心からありがとうございます。

A little more persistence, a little more effort, and what seemed hopeless failure may turn to glorious success. —Elbert Hubbard

「もう少し粘り強く、もう少し努力すれば、絶望的な失敗に見えたものが、輝かしい成功に変わるかもしれせん。」—エルバート・ハバード

